



フォト・ルポ

上海

近未来ビルの直下で 物乞いして生きる人々

中国の急速な経済発展の中心地・上海。繁栄を象徴するかのようには、近未来的な超高层ビルが林立している。しかし、その直下には、物乞いをして暮らす人たちがいる。上海の「陰」に埋もれる彼らを、「そういう人々」としてではなく、中国の「現実」が潜んでいた。個々の人間として取材した。個々の事情のそのなかに、中国の「現実」が潜んでいた。

ルポライター 近藤雄生

楽器の総称を弾く彼の姿は、いつもの人物とは違うようだった。「ぼくは浦東(注：上海東部)に住んでいるから、普段はその辺りで弾いている。昔は上海の近くの農村で農業をやっていたんだけど、15年前、20歳のときに目が見えなくなると、その3か月後に妻に逃げられちゃってね。それから、これを弾き始めたんだ。そう、もう15年になるな。ここは初めてだから、どれだけ稼げるかわからないけど、浦東では1日、30元(約450円)ぐらいは入れてもらえる。十分ではないけど、それでなんとか生きてはいけるよ」

王、35歳、上海郊外の農村出身

意外なことに、彼は、不思議そうな顔をして、こう言った。「ここは今日初めてだよ」

そう言われてみると、小さな腰掛けに座って、あまり落ち着かない姿勢で胡琴(二胡)などの

王、35歳、上海郊外の農村出身

意外なことに、彼は、不思議そうな顔をして、こう言った。「ここは今日初めてだよ」

そう言われてみると、小さな腰掛けに座って、あまり落ち着かない姿勢で胡琴(二胡)などの



地下鉄の駅で胡琴を弾く王。1日30元ほどを稼ぐ

王、35歳、上海郊外の農村出身

意外なことに、彼は、不思議そうな顔をして、こう言った。「ここは今日初めてだよ」

そう言われてみると、小さな腰掛けに座って、あまり落ち着かない姿勢で胡琴(二胡)などの

王、35歳、上海郊外の農村出身

意外なことに、彼は、不思議そうな顔をして、こう言った。「ここは今日初めてだよ」

そう言われてみると、小さな腰掛けに座って、あまり落ち着かない姿勢で胡琴(二胡)などの

出すに至っている。

蘇風、26歳、広東省出身

間もなく一人の男がすっと彼に近づいてきて、金の入った箱の中を調べ始めた。

すると王は、さっと胡琴を片付けて立ち上がり、その男の肩につかまりながら、にわかに立ち去ってしまった。

その急な展開に驚いたが、理由はわからない。あの男は仲間なのだろうか。追いかけてくたせいかもしれないという気もして、あきらめた。

外灘沿いの大通りの歩道の端に、男がうつむき加減に座っていた。経緯を書いた木の板を両手に持って、その手前に小銭の入った箱を置いて、何かに耐えるように、じっとしている。

その男には、下半身がなかった。両足が付け根からともになのだ。通りすがりに小銭を投げ入れて行く人は少なくない。小銭がチャリン、カーンと音を鳴らす。その度に、彼はお礼を示すように、うつむいたまま少しだけ頭を動かした。

リニアモーターカーが走り、最近ではディズニーランド建設の話も持ち上がっている上海は、1700万を超える常住人口を抱える大経済都市である。累計400万人にもなる他地域からの流入者によって膨張を続けている。そして、人口の過剰や戸籍制度など中国特有の問題が深く絡みつき、多くの路上生活者(路上で生活の糧を得ている人)を生み

の嫌なようで、「向こうに行くと話そう」

そうやって彼が、両手を足のようにつけて向かった先は、歩道と車道を分ける柵と電話ボックス

の裏のわずかな隙間だった。「山を切り開く工事の仕事をしていたときに石が落ちてきて、両足をやられたんだ。2004年6月だったよ。故郷の村にいれば、政府が毎月100元(約1500円)くれることになったんだけど、それじゃ全然足りないんだ。生きていくのに、1日何元いると思う? 30元? なら、月100元で生きていけるはずがないだろう」

両足を失った彼は、話しかけると電話ボックスの陰に向かった

「親はもう二人とも死んだよ。きょうだいもいないし、村には誰も頼るものがないんだ。だから、ひとりで上海にやってきた。来たばかりで、とりあえずこうしているけど、1日40元ぐらいは稼げるから、なんとか食いつなぐことはできる。夜は地下道で寝ているよ……仕事っていいも、おれには何も技術なんてないんだよ。だから、まず義足を買わなきゃならぬんだ。そうしないと、仕事なんて見つかりっこない。でも、5万円ぐらいするらしいんだ……」

決して明るい様子ではなかったが、話しやすい青年だった。聞き取れないことがあると、「中国語は読



「誰か助けてください」と訴える母子

めるのか?」と、ノートに丁寧に漢字を書き付けてくれた。久々に誰かと話せたことを喜んでいたので、話しかけた。

「息子は去年の夏、突然、病気になるって、こうなっちゃったんです。がんばって勉強して成績が良かったから、夏休みには何も言わず遊ばせていたら、毎日、一日中ネットカフェに入り浸るようになって……ある日、急に熱を出して……入院しても悪化するばかりで……まさか、こんなことになるなんて……」

中国で少年がネットゲームを休みなしにやりすぎて死亡したというニュースを聞いたことがあったため、この話を聞いたときは驚いた。目の前にいるこの少年は、いったい、どうしたのだろうか。

上海の代表的な商業地の一つ、徐家匯の大きな交差点。銀行の前の段差に女性が座っていた。黒いシャツを着た彼女の身なりはきちんとしていて、経済的に問題がありそうには見えない。ただ、その腕の中に、自ら口をきくことも動くこともできない男が、つらそうに決して小さく男



ボールペンデザインから 新作ボールペンが登場!

日本シビルヘグナーでは、新作「P3140」を全国の百貨店、筆記用具専門店、およびボールペンデザイン直営店にて発売。その最大の特長は、ペン先をボディから出し入れする際に、ペン自体を振り下ろすという斬新的なメカニカルな操作性「シェイクアクション」だ。ボディは、アスファルトを疾走するスポーツタイヤをイメージ。マテリアルには快適なフィット感が得られる天然ラバーを採用している。全長わずか11cmというコンパクトかつ軽量サイズで、携帯性抜群! スーツスタイルからカジュアルまでどんなシーンにも。問/☎03-5441-4515



おしゃれな大人の コンフォートシューズ“ホッパーズ”

リーガルコーポレーションから、独自の研究・開発から生まれた快適な履き心地のシューズ“ホッパーズ”が登場。シューリベアを通じて得た「生きたデータ」を基に、靴の特性ごとに製法を変え、最適な素材で軽快なバランスに仕上げた靴だ。写真の「週末靴」は、足裏形状を再現したフットベッドインソールの履き心地と、服装のコーディネートが楽しめるカラーバリエーションが特徴。※4月10日発売(4月23日号)「ビジネスエリートワードローブ」特集の27ページ掲載のホッパーズの価格に誤りがありました。正しくは1万6800円。



日本人英語から脱却できる カプランの「英語マスターセミナー」

現在のレベルにかかわらず、誰でも日本人離れした英語力を身に付けられる学習法を紹介する6時間半の集中セミナー。高校卒業後から、国内の学習だけでネイティブ並みの英語をマスターしたカプラン日本代表が、「英語で考える」を取り入れたカプラン英語マスター学習法を理論と実践を通して伝授。セミナーの大半は日本語禁止。英語オンリーの時間帯には日本語を話すと1000円の罰金を設け、徹底的な実践練習を行う。詳しくはホームページ(www.kaplan.ac.jp)まで。問/カプラン日本校 銀座English Center 03-5524-5851 カプラン日本校表参道English Center 03-5774-6968

KUMON SPEED READING SYSTEM

KUMONの英文速読トレーニング 無料体験受付中!

“日本語を読むような感覚で英語が読めたら…”。それを可能にするというのが「KUMON SPEED READING SYSTEM(S.R.S.)」だ。そのポイントは、ネイティブが英語を読むように読む。つまり、英語だからといって一語一語訳しながら読んだり、日本語の語順になるように返り読みをしたり、といった日本人特有の悪い読み癖から脱すること。S.R.S.では多岐にわたるジャンルの英文を、「語順どおり」に、英語は英語のまま理解しながら読むことで、英文の大意をスピーディに正確に把握し速読力をつける。問/☎0120-404-889



におわず、香る。D-spec [セブンスターレボウルトライトメンソールボックス]

JTは、「セブンスターレボウルトライトメンソールボックス」を全国で新発売。「たばこの気になるにおいを低減した」D-spec製品であり、タール3mgと、セブンスターの中で最も軽く、JTのメンソール製品としては初めて紫色のパッケージを採用した。先行発売した静岡県では、「3mgで吸いやすく、味もしっかりある」、「メンソールが強めでよい」、「たばこの臭いが気にならない」、「吸ったあとの臭いも気にならない」といった高評価を得ている。限定発売から3か月弱と、近年では最速ペースで全国発売となっている。問/☎03-5572-3336



滋養強壮・肉体疲労時に 「キュービーゴールドα」新発売!

興和新薬から新発売されたこの新製品は、植物由来の滋養強壮生薬であるエソウコギ乾燥エキス、オウギ乾燥エキス、ニンニク抽出成分(オキソアミジチン末)に加え、塩酸アルギニンと6種のビタミンが同時に配合されている。1回わずか1錠。1日1回から2回の服用で「からだ全体が疲れた時」さらに「からだに元気を付けたい時」に効くようにできている。絶え間なく変化を続ける現代社会、気付かないうちに無理をしていますが、いろいろな疲れが抜けない、からだが重いといったつらい症状にびったり! 問/☎03-3279-7755



読売ウィークリーおススメのGOODS&SERVICEを厳選してご紹介するこのコーナー。暮らしやビジネス、遊びなど様々な情報が目白押し。トレンドに敏感なあなた、お見逃しなく!



児童見守りシステム 「どこ・イルカ」サービス開始

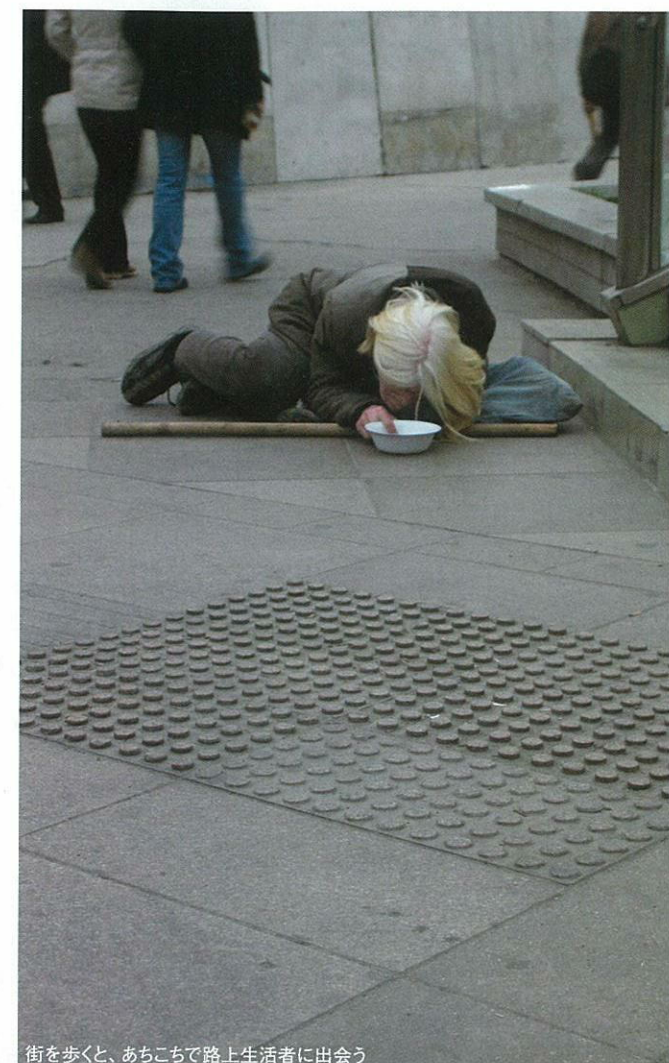
「どこ・イルカ」サービスは、児童に持たせる端末から、5分毎の“足どり”情報を収集し、保護者がe-mail機能を持ったPHS/携帯電話またはパソコンを使って「どこ・イルカ」サービスセンターに問い合わせると、児童の行動を見守ることが出来る。小学生低学年以下の子供を対象とし、犯罪発生率が極めて高い登下校時の犯罪予防に重点を置いたもので、児童の移動経路を保護者や学校などが確実に把握し、児童が犯罪の被害者となることを未然に防ぐ。問/☎0570-053-105 http://www.dokoiruka.jp



将来、保障内容を変更できる 生命保険「WAYS」新発売

アフラックは、将来、必要な保障内容に変更できる生命保険「未来の自分が決める保障WAYS」を新発売。保険料払込期間中の解約返戻金を70%に抑えることで、万一の保障を劉安な保険料で提供するとともに、将来、ニーズに合わせて「医療」「介護」「年金」のいずれかへ変更することができる。変更においては、健康状態の告知(医的選択)が不要という画期的な仕組み。自分に必要な保障を今すぐ確実に把握し、児童が犯罪の被害者となることを未然に防ぐ。問/☎0120-378-378 www.aflac.co.jp

「そうこうするうちに、息子の治療費で家のお金が底をついてしまったんです。それでも息子を治したくて、部屋を売って上海に出てきたのですが、お金は1か月で尽きてしまい、こうして心ある人にお金をもらって暮らしているんです」
必死に訴える彼女の話を聞いてみると、私服警察官が寄つてきて、「ここをどけ」と言ってきた。その場で写真を撮らせてもらうことになったのだが、警官はそれすらも認めず、「早くどけ」と追ってくる。結局、近くの公園で撮影した。
「息子は、今年の6月で小学校を卒業のはずだったんです。どうか、誰か私たちを助けてくれる人を見つけてください」
そして何度も、ありがたう、



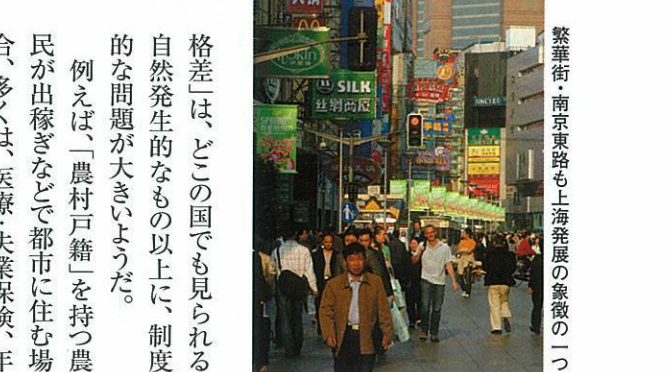
街を歩くと、あちこちで路上生活者に出会う

と繰り返しながら去って行った。
氏名不明3人の
それぞれの事情
— 5人ほどの物乞いが、地下鉄の駅から地上に上がった。その中の一人、左足が不自由で背中が大きくもり上がった中年の男に話しかけた。豊かな髭と彫りの深い顔が印象的だ。
足と背中が、幼いころに病気でそうなった。物乞いをして1日に稼げるのは7、8元だが、それでも現金が手に入り、物がなんでもある上海での生活は、江蘇省の農村での日々よりはマシだという。ただ、寂しい。
「自分のような人間と交流してくれる人なんていない」
そう言う苦笑した。いつか路

上で小物を売るのが仕事をしたいという彼は、笑顔が多く、何を聞いても丁寧に答えてくれたが、名前だけは決して口にしようとはしなかった。
— 人民広場そばの歩道橋の下にいた一人の物乞いは、ほとんど動かず、地べたに体を擦り付けるように、ただ入り込んでいた。すべての色素が抜けたように、髪の毛も何もかもが白かった。男も女かもわからない。何を話しかけても答えは返ってこなかった。中国語を話せまうめき声を出すだけだった。
— 外灘にある歩道橋の階段に、頭にタオルのようなものをかぶり、大きな雑巾がけがいくつ



も付いた上着を着た男がいた。「いろんなところに仕事を探しに行つたけど、『不要、不要(いらぬ)』と言われ続け、どこもほかに仕事をくれないんだ」
弱々しく、そう言つて、彼はただ、ほかにどうしていいかわからないといった様子で呆然と座り込んでいた。
*
こうした状況を説明する際には、「都市・農村格差」という言葉がよく使われる。貧しい農村から豊かな都市へ、という構図だ。しかし、中国の「都市・農村



繁華街・南京東路も上海発展の象徴の一つ

格差」は、どこの国でも見られる自然発生的なもの以上に、制度的な問題が大きいようだ。
例えば、「農村戸籍」を持つ農民が出稼ぎなどで都市に住む場合、多くは、医療・失業保険、年金といった社会保障を受けられず、医療費などにおいて多大な自己負担を強いられる。「都市戸籍者」との間に、そのような格差(差別)があるのだ。
最近、この制度的格差は緩和の方向にはあるようだが、なお根深く残っている。貧しい農民は、農村の生活も苦しく、都市に出てきても、また苦しいのだ。
ただ、物乞いに対してお金をあげたり、物乞いが自分の経緯を書いた紙を立ち止まって読んでくれる人が多くいることには、救いも感じた。
路上生活者は、光とともに生じる影のようである。しかし、光を当てるとその影は消え、そこには自分と変わらぬ何人ももの惱める人間の姿が浮かび上がってきた。
yw